

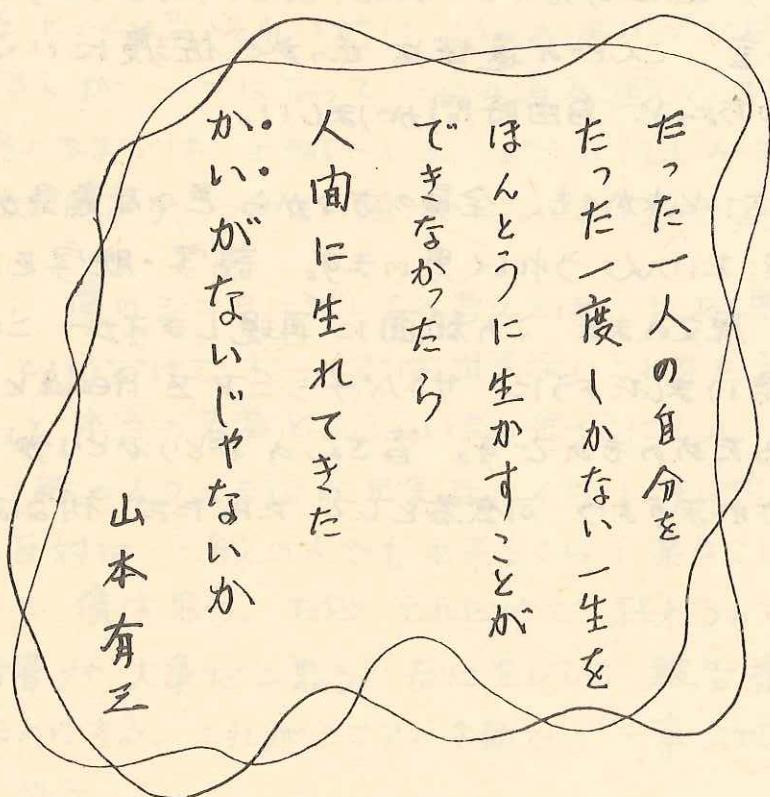
シニアースカウトとは

1975年6月8日

ボーイスカウト京都第38団
シニアースカウト隊 印刷情報部
副長農林班作成

“冒険”とは何かを求めて。

“我々のすべてがエヴェレストに登れる
わけではない。が、しかし……”



$$\sum_{SCOUT=1}^{13} \text{ISS} \dots ? \div \left(\begin{array}{c} + \\ - \\ \times \\ \div \end{array} \right)$$

上記の何やら試のわからぬ式は、サンパチのシニアースカウト隊を表わしたものであります。これから SCOUT=1, 2, 3, … 13 の各要素を代入して行って、その結果がどんなものになるのか、ひとつひとつ計算してみようではないか。但し、各要素を代入する順序は、計算の結果に影響しないか、コンピューターでは残念ながら計算が不可能である。算盤、及び計算尺、さらに電卓を用いても計算は不可能であるから、各自、頭と心(Head and Heart)とを使ってやってみよう。

——私は、本日の司会者です。本日は皆様方から「シニアースカウトとは」とかいうお話を聞きたいと思います。ではまず、どなたかトップバッターをお願いします。

SCOUT 1 ; まず、ボーイスカウトというものについて考えてみると、やはり何といっても、ちかい・あきての実行である。そしてそれを基本に、色々の事を教わっていった。それは健全な少年であるために行った事であり、社会を理解していくためだと思う。

そしてシニアースカウトとは、やはり、ちかい・あきての実行であるか、それをもう一段高くしたものだとと思う。しかし、内容としては、ボーイよりももっと高度であると思う。それは何事も自分から進んでやっていく自主性、それに伴う思考力、またボーイスカウトでは教わったのとは反対に、色々の事を教えて行き、また色々の行事などの手伝いを

したり、遠征などの計画を自主的に企画したり、ボーイ・カブなどの隊付や上班、デンケーフなどの奉仕活動を行ったり、それらもろもろの事を行うからであると思う。しかし なぜ それらの奉仕活動や、自主性や思考力などもろもろの事を行うのかと 考えてみると、ちかい・あきての実行のためである。しかし、もっと深く考えて、どうしてちかい・あきてを実行するのかというと、それは、ぼくらはもうじき成人するからであると思う。すなわち、大人になるということは、一人前の人間になるということであり、何事も一人でやっていかなければならぬからであると思う。そのためにこそ、今いちばんに スカウティングを行なうのが シニアスカウトだと思ふ。少しかたくらしい文章になったが、ようするに、シニアスカウトとは、社会に出てもはずかしくないような人間になるように 心身を養って行く所だと思ふ。

——うーん、最初からちかい・あきて という言葉が出てきましたが、SCOUT 2； 以前 名訓で「シニアスカウトについて」という題で意見をかわしたことがある。ここで「SSとしていかにあるべきか」ということと、「各隊の活動内容」を発表した。

その「SSとしていかにあるべきか」という問い合わせに對し、自主的に活動する、BSがたよれるような SSになる…などでしたか、まとめてみると、「自分達で自主的に活動し又、年下のスカウトに教えてゆく。又、必要に応じて 自分達で発想し プログラムを消化し 反省し次の活動のバネとする。」ということになった。又 それに付け加えて「ボーイで修得した技能を SSになつても 常に訓練し、進級にはげむべきである。」ということでもた。

その後、名訓の隊長が話の中で「活動していくうえで ちかい・あきての実践 ということを 充分考慮しなければ スカウト活動でない。又、SSならば この問題にヒリくんていかなければならぬ」というような

ことをいわれた。

ぼくは「何か大切なものをわすれている」その何かを見つけたような気がした。

ぼくは BSに上進して間もないころの キャンプでスローンをなくした。そこで 目上の人へ そのことをいいたら「そんなんあきらめろ、かえってくる思てたら あまいぞ。こんどから気をつけろ。」といわれた。その時は BSって きびしいなと思っていたか、よく考えてみるとまったくおかしい。まるで 戦争中みたいに 自分のことで精一杯という感じで つめたり。たしかに 自分の不始末かもしれない。しかし ちかいの 他の人々を助ける ということや、あきての人の力になる、又 親切ということと ほど遠い。まったく 生存競争だった。CSにいるころは 少少年ばかりだと 思っていた。ところが その期待を うらぎられた。班長になるまで BSとは CSとちがって きびしいところだと 思っていたか、最近 この考え方まちかっていたのに 気がついた。そして 大切なものを わすれていたことに 気がついた。それは CSのころにいたいしていた イメージである。ちかい・あきては 入隊の時のもんくだけで 何も考慮せず活動してきた。そして 手旗とか 結索とか 地図作業とかを学んでハイクや キャンプに いったりした。これでは そちらの熟と そうちがわなり。本部の考慮によつて 少しは スカウティング"らくなつてついたにすぎなかつた。

しかし BSのときは これまでなんとかなつてたが、SSになって、活動内容が 自由になつてきた。だから BSの延長で 似たようなやり方をしていたのでは スカウティングにならなくなつてしまつという深刻な問題があつてきつた。

だから まず ちかい・あきての本質について 考え、今までの認識をあらためる 必要があると思う。

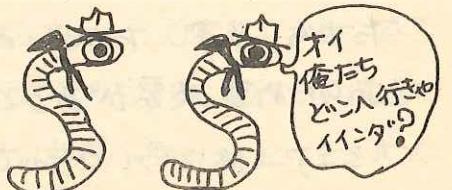
「シニアとは どういうものであるべきか」という問に対しでは「たえず

ちかい・あきての実践に 真剣に とりくんでいる若者」であるべきだと答える。

SCOUT3：普通ボーイスカウトといえば、一般の人は 人のために奉仕などをすることのよい集団だと思っている。又、実際そうあるべきである。そして、シニア隊とは、そのボーイスカウトの一つ上なのだから、ボーイスカウト以上に そうでなければならぬ。

ぼくは カブスカウトに入る時、何の目的もなく、ただかっこいいものだと思っていた。そして ボーイスカウトの人達を見るたびに、早く大きくなつて、あんばかりこのいい服を 着てみたいなあ と思つてきた。そして ただ自分のために 今までいろんな綱や章を とりながら スカウト生活を あくってきた。そして いつのまにか シニア隊に入つたのである。いまふりかえつてみると、ぼくは カブスカウトになつてから今まで、人のためになつた という思いでが 一つもない。そして、ちかいやあきてを 守つたことも 少ない。いったい 世間一般に言つ ボーイスカウト という集団は何なつたろう。自分のためにだけ 活動している、ボーイスカウト一人一人を強く、たくましく育て上げる 集団なのだろうか。又、それに加えて 人のためにも 役立つ集団なのか。ぼくは、自分の中にはもちろんだが、人のためにも 役立つべきだ と思うし、みんなもそれは わかっていると思う。が、ぼくもそうだが、ほとんどの人は、あまり人の役に立つていなかつと思う。だから ぼくとしては「ボーイスカウトとは何なつか」ということが はっきりわからぬので、「シニア隊とはどうあるべきか」ということは 味えることができない。

—— なる程、色々な意見があるようですね。答えられないというのも、ひとつのお答えかも知れませんか、あんまりむずかしく考えない方がええのとちがいますか。
どなたか もうちょっとリラック
スした意見、ありませんか？



SCOUT4：シニアはどうあるべきか —— しばらく考えていたが、なかなか答がうかはまい。よって シニアだけの問題じまいか 最近感じていることを 少し書いてみる。

電車、バスの中での事、若い世代の人達は みなすわっている。老人が 停留所で 乗車してくる。すわっている学生達は 皆 目をつむり タヌキ寝入りをする。バス(あるいは電車)が 発車する。お年寄りは よろけながら 立つてゐる。若者達は 体は丈夫で 足の力もある。踏んぱりも きくはずの若者達は 腕を組み、下を向いて、目をつむつて すわつてゐる。老人が 大きく よろけても ちらりと見やるだけで 一向に席を代わろうとしない。(お年寄り、体の不自由な人の 優先席でも)，多少 良心が とかめるのか、居ごこち 悪そうに 体を ごそごそ動かすがそれでも 代わろうとはしない。なぜ 代わろうとしないのか。「恥ずかしいもんね」と、某君が 言つてあつたが 冗談じゃねえ。恥ずかしい、恥ずかしくない、の問題じゃない。人間が人間たるとこらの 最も 基本的な問題だ。少し オーバーでしようか。いや けもの達さえ、それはしているのだ。ブルーブの老いた者 または 幼ない子供は、まわりの者によつて 守られる。まして 人間は 彼らより 高等な生き物であるはずでは ありませんか。それとも 下等動物か？

いつも他の人々を 助けます。体を強くし 心をすこやかに 徳を養います。と スカウトのちかいでも述べてあるし、「あきて」をみても 考えてみると ほとんどうか それと少しこそ 関係がある。それらを守るということは、直接、バスの中で 老人に 席を ゆかるということにながると思う。その他、日常生活の中の 出来事にありても、同じことか言える。

たとえが長くなつたが、我々のすべきことは つまりは「ちかい」「あきて」の実践だと 思う。我々シニアスカウト(は その「ちかい」「あきて」の実践の中から、又 他の他の種々の出来事の中から 新しい 自分に あつた 個人としての「ちかい」、「あきて」を作り出せ、更に その実

践の中から 自分の、まっとうな人間としての、シニアとしての 確固たる人格を 築き上げて 行きたい。

—— シニアスカウトとは というテーマで話を進めていますが、この辺で、「どうあるべきか」とか「どんなであつたらよいのか」という点に力を入れて進めて行きたいと思ひますか……。

SCOUT 5： シニアリング"とは？ などと改めて考えるのは 今になって始めて考えることである。まず、今までのシニアリングについて反省してみると、いちばん いけなかつたのは 自分に対しての きびしさが なさすぎたような気がした。色々なことに参加しても、計画のあまさ、不満いめさ、又何よりもいけなかつたのは 終った後の 反省が なかつたようだ。ボーイの時には まちがいは わかっても、どうすれば よかつたか、どうすれば よいか、など どうしたことか わからなかつた思い出が 残っているか、シニアとは もうそれが わかり、その点、をもっと 追求しなければならぬ年だと思う。そして 今まで そのことか なかつたようだ。

その為にも ルックワードで 述べていたように、色々なことを経験しなければ ならないと思う。奉仕といわれるようなことを、奉仕の精神といながら行なう。はたして それは 報酬を求めない 真の奉仕で あつたかどうか 又 ある目標を決め その目標を達成させようとしたか、かりに、失敗したとしたら、その原因を分析し、理解し、その経験を生かし、次の目標への踏台として成長していく。これが シニアリング"ではないかと、今は、思つている。

—— 38回の現状を踏まえた上で 「こうしたうよい」「ああしたうよい」という意見はないですか。このような意見なら たくさんあると思うますか。

SCOUT 6： シニアは いったい どうあるべきか、一度考えてみようではないか。

先日、名訓に参加した時、シニア隊の活動やシニアの目的などいろいろなことについて 話し合つたことがある。そこで この問題について 考えていこう。

最近私は、シニアは、どうあつたらよいのかとか、シニアの目的とはいつたまゝ何なのか と言うようだ。いろいろな問題について 考えることがある。他の人は、どう思つていいか 知りませんか、私は、このように思つてあります。先ず シニアの活動については、ボーイ隊やカブ隊に奉仕として、隊付とか、インストラクターとして、参加するのもシニア隊の活動の一つである。しかし これだけでは、ボーイ隊にもがはえた様なものである。これだけでは ためである。しかし これだけでもシニアの目的である。だけど 奉仕するのもよいが、今現在の進級状態、心がまえで、ボーイ隊、カブ隊の指導をしていくのか、疑問に思つています。ここで やはり、シニアが 見本を見せて 進級していくければならない。なぜなら、カブ隊やボーイ隊の人達も進級して行くと思うので、みんなの手本となるくらいの技能を 身につけなければならぬと思う。このように進級し、技能を身につけみんなの手本となることもシニアの目的であると思う。今現在、サンパチシニア隊は、どうであるか 考えてみるべきであると思う。今現在のサンパチシニア隊では このような奉仕活動を行つてゐるが、技能の面は どうであるか 少し問題である。このような活動 プラス 我々シニア隊 独特の計画を立てて行つてゐるが、まだ少し もの足りないと思う。も、といろいろなふもれより シニア独特のものを 計画していこう。この計画をするため、企画委員会を設けて 企画していかなければならぬが、最近このシステムが 乱れてきつてゐるようである。なぜなら、簡単な行事の場合だと、委員会を設けなくても、グリーフを作ればできる という意見が、よく出たためである。しかし、この委員会が あつたら シニアとは いえぬと思う。この委員会があつて 始めて行事などを企画していくのだから、なくてはならないと思う。そこで もっと いろいろな訓練

などを企画して、そのむずかしい訓練などに挑戦しようではないか。
結論として、シニアは何をしたうまいのか。この問題について 113 いう
と名訓などで学んだことを書いていきます。

スカウトは、何を重要とするのか ということである。BPも言ってあら
れることだが、宗教が 為要だ" ということです。我々は、今までに宗教
について 話し合ったことが あるでしょうか。シニアに入つてから
まだ 話し合つたことない人が、ほとんどだ" と思う。今まで 宗教に
ついて 話し合いがなかったのは、我々に 宗教について 知識や自信
がなかったからである。我々スカウトは、もっと宗教について 学ぶ
必要がある。一度 宗教について 話し合おうではないか。

シニアスカウトの目的で 大切なものは、みんなそろつているのだろう
か。この大切なものは、スカウティングの 4本柱が そろつている
か ということである。果して 今のスカウトに この 4本柱が そろつ
ているか ということが 問題である。この 4本柱とは何か。1. 人格,
2. 健康, 3. 技能, 4. 奉仕 である。これに加えて ちかい、あまでの実
行である。この4つのうち ひとつでもかけねば ためである。4.の奉
仕とあるが、この奉仕をするこ自身が、自分自身だと見て 行
われなければならぬ。これが自分自身を 育てて いくのである。奉仕
などをする時の ルジがまえとして 私でよかつたらという気持ちで 参
加しよう。果して 今のスカウトに これだけのことができるのだろうか。
これだけが シニアの目的として 最低の条件であると思う。これだけのこ
とを実行するシニア隊であつてほしいと思う。みんな努力して これだけのこ
とは しようではないか。スカウティングにおいて、もうひとつ大切なのは
自主性が大切である。自分にやる気が なきことは いけない。自分一人
でも スカウティングを やろうという 心がまえが大切である。

—— 今までのサンパチでの 活動を振り返ってみて 何か意見があつたら
聞かせてほしいですね。

SCOUT W: たゞへんむずかしい 問題だ" と思う。シニア活動を 113
113やつて来て 一年半の月日がたつたけれども あらためて今 考えみろ
と言われるとき まとめて しまう。むずかしい事は、わからぬけれども 一番
かんたんで 大事な事と思うのは、スカウトは そこらの青少年の団体とは
ちがうということではないか。

最近 「スカウトらしくない」と やれやれにとって 最も恥ずべきこと
を言われるが、どんな事をするにも まず「こんな事なら 普通の高校
生でもするんじゃないかな?」と考え直してみたなら あんな事も言
われなくてすむし 充実した シニア活動ができるんじゃないかな?

一見、しょうもない事のようでもあるけれども、ところがどうこり やつて外
る価値は、多分にある。やって損はない。別に力のいることでもなし、計
画をして、実行する前に ちょっと考えて シニア活動が よりよくなるなら
こんなやさしい事はないのではないか。みんなしてやってみよう。

SCOUT S: ことして 3年目で シニアとしては 最年長になるわけだが、
一年目でやつたことといえば、何も頭の中にうかんでこない。それにこの
年は はり、たばかりなので、シニアとは どういうものであるのかもは
っきりつかめなかつたようだと思える。それに大きな行事もなかつたし、
入試とかはなつたから(ぼくは 関係なかつた)。2年目に入
て ようやく 動きたしたようだと思える。やつたことといえば、BSの
奉仕、初日の出見物、遠征などでは なかつたろうか。この中で 自分
としては やりがいがあつたのは やはり BSの奉仕だ" と思う。これが
らして シニア活動について 質問かのこる。ただ BSの奉仕をやつ
ていれば その事が シニア活動に 直接 繋がつくかというかである。
ただ 奉仕をやつていれば 自分は シニア活動をやつてゐるのだと錯覚を起す。
まあ 奉仕も シニア活動の一部だ" といって しまえば
そこまでだが、やはり シニアとしての 独自の活動を もっとやろべきで

はないかと思う。ではどういうことをすればよいのかと聞かれても、自分としてはこまってしまうが、やはりほかの人の目から見てはおシニアはああいうことをやっているのだとわかる活動をみんなでみつけやるべきではないかと思う。

その一つとして遠征があるが、これだけでは物足りないよに思える。シニアになってからは自分の時間をたくさん持つたいく望むものもあるかもしれないが、あまりにも無欲すぎるのではないか。まずこれがぼくが考えた問題点の一つだ。

それから月に一回の集会はあまりにも少ないように思える。何も話すことがないから月に一回しかあつまらないのではなくて、やはりこの月は、こうすることをやろうと年の始めにきめておいてそれをみんなで話し合うべきだと思う。このように決めてしまえばBOYのときとあまりかからなくなってしまうが、BOYではできなかつたことを決め、それを実行にうつすべきだと思う。

たとえば、ぼくとこの班では、ソフトボールをしようと言う意見も出ていたし、こうすることをもっと積極的に決めて取り組むべきだと思う。これはG5交歓は延期になっているが、やるらしいし、初日の出の方もうまくできただようと思える。来年もこうすることに加えてもっとたくさんいろいろな事に取り組んでもらいたい。またこういう娛樂的なものはかりでなく、訓練大会のようなものを取り入れてはどうかと思う。

シニアに入ってからは全体的に言えることだが、進級の方があまり進まないことである。こうすることも考えてこれからの活動をやって行きたいと思う。

——個人的に「僕はこんなことをしたい、こんなことをする」というようなことはありませんか。

SCOUT 9：シニア隊とはスカウト活動において通らなければなら

ない一歩階ではないかと思う。シニアの下にボーイがあり、シニアの上にはローバーがある。その通り道にすぎないのではないか。それでもボーイとしては異った内容ではないかと思う。

ボーイのようにリーダーが決め、そして行動をする、それではなく、シニアは自分たちで計画立て、自分たちで行動をする。それは異なるが、やけにそうでなければならぬ。それにもっと高度な計画に挑戦して行くような考え方で行かなければならぬのではないか。しょく。

進級のこと一つにしてもボーイとは異なって自動的に取り込まれなければならない。それだけに各人の責任も重く、がんばらなければならぬのではないかではないでしょうか。

そしてボーイではまだ許されたりた遲刻や無断欠席などは各人が考えてせつたいにしないように心がけて行かなければならぬと思います。予定通りに計画を進めて行かなければ全体のふんい気も悪くなるし、せっかくの計画もくずれて解散予定も遅れたり、せっかくの内容も全部出来なかったり……。遅刻や無断欠席などで予定などがくずれた集会を月2回ぐらいするより、そんなことのない集会を月1回でもきちんとされた方がいいのではないかでしょうか。

こんなことを書いた以上は、自分自身もせつたりに遅刻や無断欠席をしないように心がけて楽しいスカウト活動を続けて行きたいと思います。

SCOUT 10：入隊してから感じたことは、班集会が非常に少ないと思った。それから感じたことはもうたれもボーイ隊のように手とり足とり教えてくれる人はいない。つまり班長・次長を入れたのだから手とり足とりいちいち教える必要はないという考え方だれもが持っているからである。ここで大切なことは個人、個人が指示を持つているのではなく、自分から進んで課題を見つけ自分

一人で 答えを見つけ出さなければ ならないと思う。もし誤っていい
も いずれ大人になれば 正しい答えは 見出せるだろうし、答えの
正・誤よりも課題を見つけ答えを出す、それも進んで見つける。

書くのは 簡単だが 非常にむずかしいと思ってる。少しくともほ
くは。以上のように書くこと、言うことは 小学生でも
できる。しかし これを 実行することが シニアのつとめである、高校
生のつとめであると信じて、今日の私は生きているし、今日の私の
基礎を造っていると信じて、今日にいたっていい。もし この考え方
が 誤っていると思う人がいれば、その人の言うことも とり入れて自
分個人の視野を拡大したいと考えています。（あれで思っている
とは書かない。）私は以上の様に考えています！

—— もうひとりぐらり 意見を聞いてから 次へ移りたいと思いま
す。

SCOUT 11：今年で シニア活動は 2年目だが 昨年は 高校受験
で 具体的に シニア活動というものは 参加せず、むしろ 客観的
に見ていた。しかし、今年は 最初から シニアリングに 参加して 自主
的で 計画性のあるものだと感じた。だから 問題点などは 考え
たりした事がない。しかし、あれで言うなら、何か 班活動とい
うものが あまり 重要視されていない様な 感じを受ける。なぜなら
今のところある集会は 月に一回 定例の隊集会だけであり 他
にも 各種の 集会はあるが、どれも 隊活動だからである。こんな
考え方には 良いのか 悪いのか わからないが、つい BOY の時と比べて
しまうから そんなふうに思うのである。しかし、あまり 回数が多い
のも 考えものだが 月に一度位ならいい様に思う。しかし よく考
えると やることもないのに 集まる必要があるのだろうか とも思う。
やはり 顔見せも、やれば何かまた 議題が生まれてくる様
に思う。だから 月に一回一時間でも 班集会をやればと思う。

あるときは かんばって 参加したいと思う。他には これと言っ
て別に何もない。しかし 来年は 自分も 最年長だから これから
の活動で 気づいた点は 色々と考えて いきたいと思う。そして
進級も 制度が 変わったけれど 今までの分を取りもどす意味
で かんばって やって いきたい と そんなふうに思う。

—— それで ほちほち 今 38回 シニアスカウト隊に対する希望
などを 発表してもらおう 終りにしたいと思います。

SCOUT 12： シニアの活動について 言えば ほくは はっきりいいで
あまり 勉強的でない。班長のほくか しっかりしてないのと 班
員が ついてくるわけはない。隊集会も 班集会も あまり ほく
自身 身を入れてやっている。中には おもしろいことも 数多く
あるが おもしろい物ばかり 出るわけにはないかない。よく考えて
みると スカウト活動は あまり いやではない、むしろ おもしろいくら
いた。でも なにか かかる。

今こうして 書いていいのも 上班に どうやられて 書いていいのだ
なぜ 書かなければいけないのか？ また 理由を きていいのか ほくか
聞かなかったのか まちかいいだった。こんどからは こうこう こう
う理由で シニアについて 書いてほしいと つたえれば すなふにかけ
るかもしれない。今まででは 自分のことについて 書いてきたから
こんどは シニアの チーム・ワークについて 書きます。

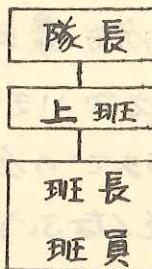
一番に思うことは 今の シニアの組織のかたちの作り方、上班を
ありて その下に 班長、班員とある。昨年は このやり方で よか
たと思う。でも 今年は これでは だめだったと思う。

上班が一人になれてしまつたと思う。表では り、しょにやつて
いるようでも、実は もうではないような 気がする。ここで 左に図
(次頁)を書いてみた。昨年までは 図1で 進められて来たと思う。
それはいいのだ、だが 今年は 昨年と あなたじよつに するといった

図1



図2



か じつは 図2の方に変って
しまったような気がする。

上班は シニアであり リーダーで
はないのだから、13人そろって一つ
の道をえらんで 一つの道を歩
かなければ ならないと思う。た

とえそれが ほんとうの道から ずれていても まちかった道でも
「これ」ときめれば 13人そろって まちかった道を進まなければ
ならないと思う。一人だけ正しい道をえらんで その方へ進んだと
ころで 目的地には つけるか、ゲーム・ワークは そのやかれ道で
すでにくずれている。だから 上班か どうこうというのではなく、
上班も班長も班員も たれかえらいは かんけいなし。ただ ぼく
らが 年をとっている。それいかがい 13人の あいだには かんけいが
ない。13人が 一つになって 一つの道を進んで 行きたい。

でも 今のままで 上班一人と ぼくら 12人の あいだには
何か すきまがあり、つめたり風かふりでいるような 気がする…。

SCOUT 13； 僕のシニアに対する考え方とは、ただ単に ボーイの
上の団体 というだけで、ボーイでは出来ないことをだけ するのでな
くて、もっと本当の若者として いまの時代にしか 出来なくて、
しかも、一般の人々のまねの出来ないくらい すばらしいことを、
またその反対に 一般の人でも出来るくらい 楽なことをして やる
のもいいと 僕は思う。ただ それだけで 終わるのではなくて 最
後の報告書が 大事だと思う。年にしても 報告書だけを す
ばらしいものにする。これがシニアの活動での 一番大切なことでは
ないかと 思う。

活動として 夏はやっぱり 遠征やらいでやめて あとは 個人的に
あけてほしいと思う。シニアになったら やはり 高校生だから 自由
な旅行もしたいし、遊びたい。そのためには バイトもしたい。そん

な時に ボーイのキャンプや 集会などがあると 個人のつごうを無
視して 行かなければならぬので もうちよとぐらり こちらのつ
ごうなども 聞き入れて ほしいと思う。そして 集会なども とまた
ま シニアとボーイの集会が 重なることがあるか 僕としては どちら
を 優先的に 出席したらいいのか わからないのですが、やはりシニ
アとしては あることは ボーイの手伝いも 重要であると思う。だから
やはり この問題は もうすこし時間をかけていかなければ カツカ
つしないものだと思う。そして 今年の 夏季の遠征は なんか 4
国と合同で 行くとかいう話ですが、僕としては やはり サンパウ
シニアだけで 計画から 立てて行きたいと思う。この遠征はも
う計画か ちゃんと立っていますか。これではなんか ボーイのグ
リーンバー用の 遠征みたいで なんか おもしろくないような 気がした。
あまけに一言、こんどの遠征は せっかく 佐渡にいくのだから
やはり もうちよと 自由時間か ほしい。

―― 本日は、ヒモかくも、全員の方々から 色々な意見が出された
ことを たいへん うれしく 思います。誤字・脱字を訂正した以
外は 原文のまま この紙面に 再現しますか、これは最初
にも 言いましたように サンパウシニアを Head と Heart で
考えるためのものです。皆さん ひとりひとりが 考える努
力をされますよう 司会者として ただただ 祈るばかりです。